【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和3年2月4日(2021.2.4)

【公開番号】特開2019-115417(P2019-115417A)
【公開日】令和1年7月18日(2019.7.18)
【年通号数】公開・登録公報2019-028
【出願番号】特願2017-250301(P2017-250301)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３１２Ｚ
Ａ６３Ｆ　7/02　３１５Ａ
Ａ６３Ｆ　7/02　３３３Ｚ

【手続補正書】
【提出日】令和2年12月18日(2020.12.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】
本発明は、遊技球が流下する遊技領域が形成された遊技盤と、表示部を有する表示手段と、を備える遊技機に関する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
遊技球が流下する遊技領域と、発射装置によって打ち出された遊技球を前記遊技領域へと案内するための発射球案内通路と、が形成された透明な遊技盤を有する遊技機であって、前記遊技盤の裏面側に、複数の識別情報を変動表示する変動表示装置を設けた遊技機が知られている（例えば特許文献１参照）。すなわち、透明な遊技盤を通じて変動表示装置の表示部（表示画面）を視認するタイプの遊技機が知られている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
【特許文献１】特開２００９－３４４３７号公報
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
従来の遊技機では、遊技盤を透して表示部を視認可能であり、表示部の前方を遊技球が

流下可能な構成である場合に、例えば全体的に明るい画像を表示部に表示する演出を行うと、表示部の前方を流下する遊技球が視認困難になってしまうことがあった。
本発明の目的は、遊技球の視認性を確保することである。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
以上の課題を解決するため、請求項１に記載の発明は、
遊技球が流下する遊技領域が形成された遊技盤と、表示部を有する表示手段と、を備える遊技機において、
前記遊技領域における所定の遊技球流下領域は、前記表示部の前方に位置しており、
前記表示部における前記所定の遊技球流下領域と前後に重なる重複領域は、当該所定の遊技球流下領域を透して視認可能であり、
前記重複領域の少なくとも一部に、所定の閾値以下の明度の表示色で構成される所定の画像を表示するようにしたことを特徴とする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明によれば、遊技球の視認性を確保することができる。
【手続補正７】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技球が流下する遊技領域が形成された遊技盤と、表示部を有する表示手段と、を備える遊技機において、
前記遊技領域における所定の遊技球流下領域は、前記表示部の前方に位置しており、
前記表示部における前記所定の遊技球流下領域と前後に重なる重複領域は、当該所定の遊技球流下領域を透して視認可能であり、
前記重複領域の少なくとも一部に、所定の閾値以下の明度の表示色で構成される所定の画像を表示するようにしたことを特徴とする遊技機。
【請求項２】
前記所定の画像は、前記表示色の明度が所定の閾値以下で段階的に変化したグラデーション画像であることを特徴とする請求項１に記載の遊技機。